

既存統計データ

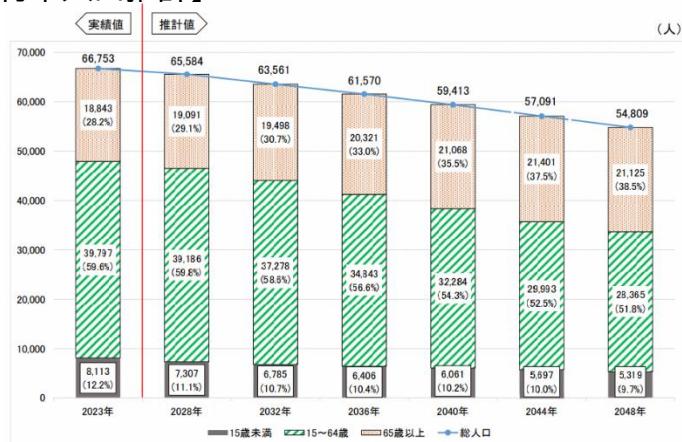
- ・国勢調査（通勤・通学流動）、人口推計、運行状況等

▼各種調査の結果から明らかになった現状・問題点

公共交通を取り巻く社会情勢・環境の変化 【国勢調査等】

- ・今後の人口減少や少子化に伴い、通勤通学需要の減少が見込まれる。
- ・今後の高齢化の進展に伴い、高齢者の増加が見込まれており、移動手段の確保の必要性が高まる。
- ・運転手不足により、周辺地域でもバスの減便や路線廃止が相次いでおり、公共交通の維持が困難になりつつある。
- ・燃料費や人件費の高騰に伴い、運行経費単価が年々上昇している。

【将来人口推計】



※2023年の実績値は、同年10月1日現在の住民基本台帳人口

[データ：羽島市みらい共創プラン（羽島市第七次総合計画基本構想案）]

公共交通のサービス状況 【運行状況等】

- ・はしまわる線は市内全域を一律のサービス水準で運行しているが、一部地域で需要や地域特性に合っていない。
- ・南部地域や市中心部で複数路線が競合している。

南部地域の路線競合状況



市中心部の路線競合状況



乗降等調査

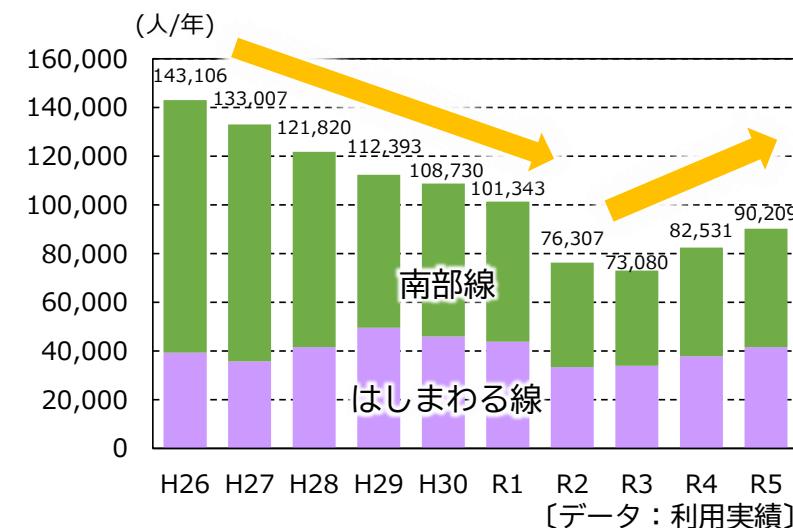
- ・コミュニティバス乗降調査

▼各種調査の結果から明らかになった現状・問題点

公共交通の利用状況 【乗降等調査・輸送人数データ等】

利用者数の推移

- ・コミュニティバスの利用者は年々減少傾向にあり、コロナ禍に伴う落ち込みは概ね回復したものの、今後も減少が予測される。



[データ：利用実績]

便別利用者数

- ・はしまわる線では、市北部を運行する東・はしまわる線や西・はしまわる線は昼間時間帯の利用が少なく、市南部を運行する中・はしまわる線や温泉・はしまわる線は夕方の利用が少ない等、運行地域によって利用特性が異なる。
- ・はしまわる線は午前中の利用が比較的多く、夕方(第6便)は利用が少ない路線がみられる。

東・はしまわる線 (人/日)

便数	時刻	全体	平日	土曜
第1便	7:57	15.8	17.2	9.0
第2便	9:23	2.7	3.2	0.0
第3便	10:51	2.7	3.0	1.0
第4便	12:10	3.8	4.0	3.0
第5便	13:33	1.5	1.6	1.0
第6便	14:59	5.8	6.2	4.0

西・はしまわる線 (人/日)

便数	時刻	全体	平日	土曜
第1便	9:30	4.3	4.4	4.0
第2便	10:57	2.8	3.0	2.0
第3便	12:11	3.7	4.0	2.0
第4便	13:36	1.3	1.4	1.0
第5便	15:01	2.0	2.2	1.0
第6便	16:27	3.3	3.0	5.0

中・はしまわる線 (人/日)

便数	時刻	全体	平日	土曜
第1便	7:47	5.5	6.4	2.0
第2便	9:14	11.5	11.4	12.0
第3便	10:41	10.7	10.0	14.0
第4便	12:08	8.7	8.8	8.0
第5便	13:35	7.7	7.4	9.0
第6便	15:02	2.0	2.2	1.0

温泉・はしまわる線 (人/日)

便数	時刻	全体	平日	土曜
第1便	9:19	10.3	11.2	6.0
第2便	10:44	15.2	15.0	16.0
第3便	12:14	12.3	12.4	12.0
第4便	13:41	8.8	9.6	5.0
第5便	15:06	6.5	7.2	3.0
第6便	16:31	2.2	2.6	0.0

[データ：令和6年5月乗降調査]

アンケート・ガヤガヤ会議

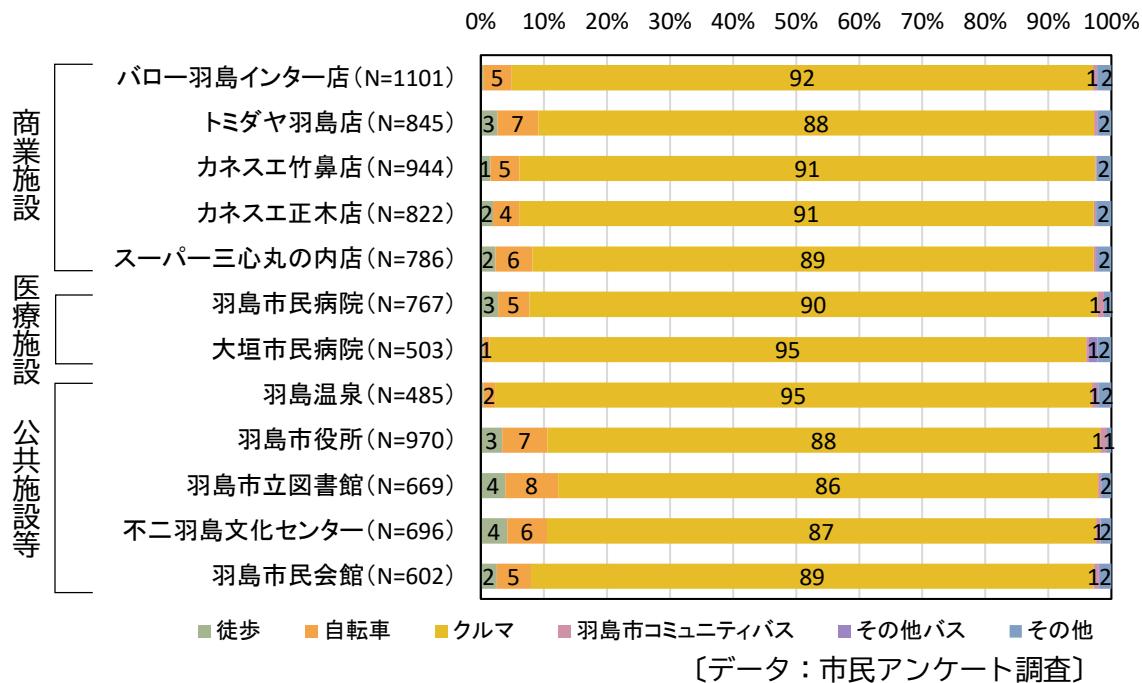
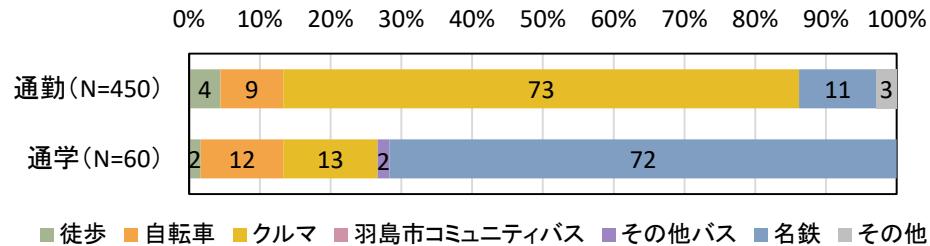
・市民アンケート（サンプル数：1,341票）、南部線沿線高校生アンケート（サンプル数：119票）、ガヤガヤ会議

▼各種調査の結果から明らかになった現状・問題点

公共交通に関する市民意向 【地域懇談会・アンケート等】

目的地別交通手段

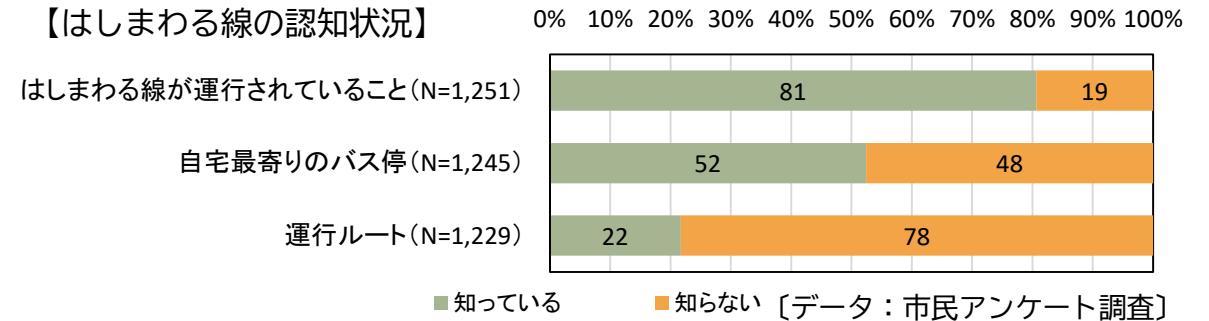
・通勤、買い物、通院等の交通手段は、クルマの割合が非常に高い。



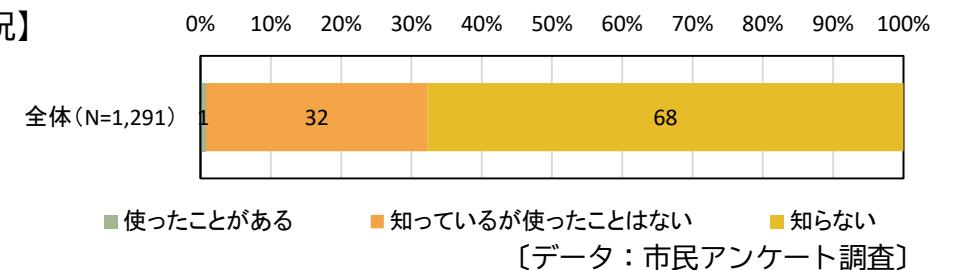
公共交通の認知度

・はしまわる線が運行されていることについての認知度は高いものの、自宅最寄りバス停や運行ルートについては、半数以上の市民が知らない状態である。生活上での移動は90%近くの市民がクルマを使用していることもあり、公共交通機関には興味がない方が多いと考えられる。路線やバス停の位置も知らない方が多く、公共交通機関の利用へのハードルは高いと考えられる。

【はしまわる線の認知状況】

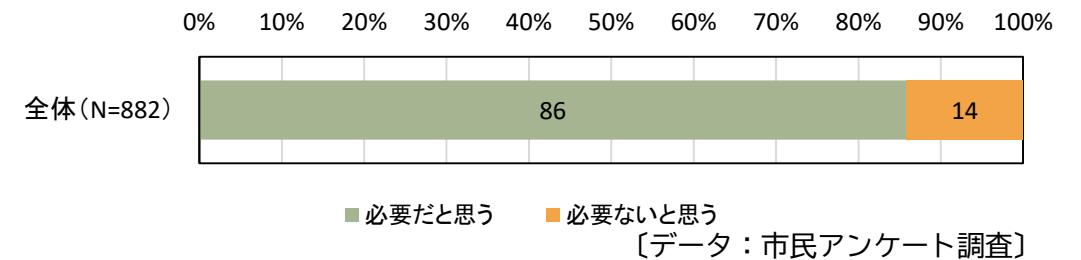


【mobiの認知状況】



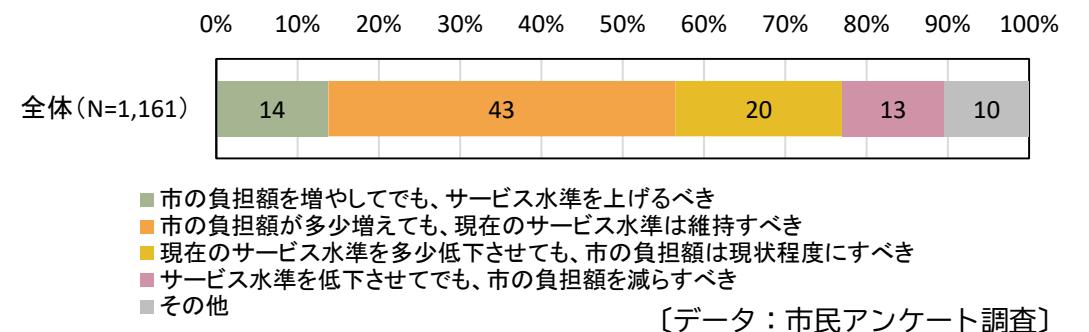
コミュニティバスの必要性

・公共交通を利用しない方を含め、86%の市民が公共交通は必要であると考えている。



サービス水準と費用負担のバランス

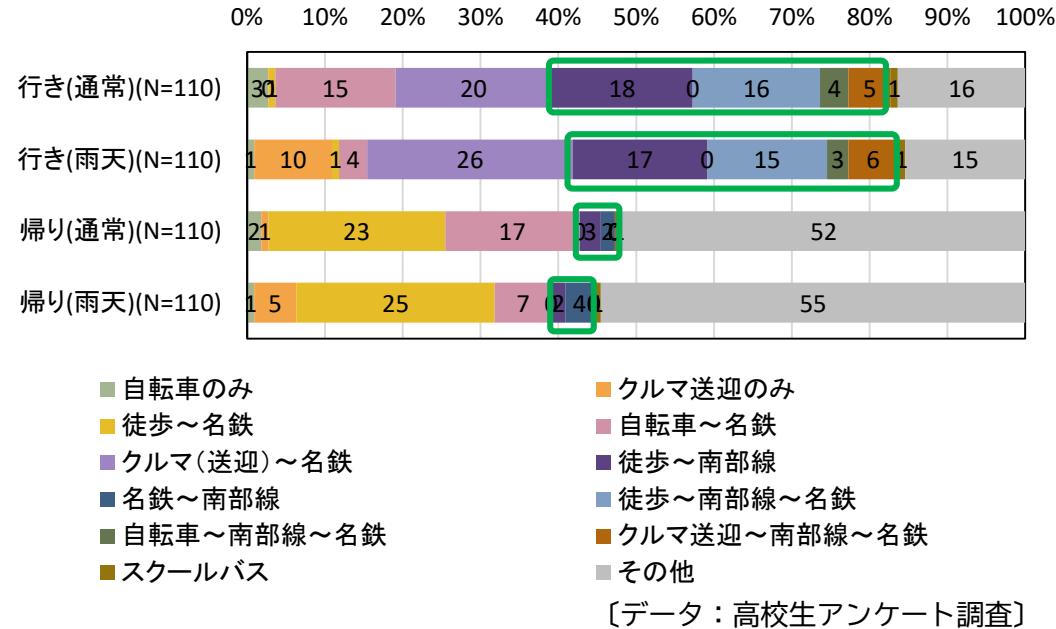
・57%の市民が現状以上のサービスを維持すべきと考えている。



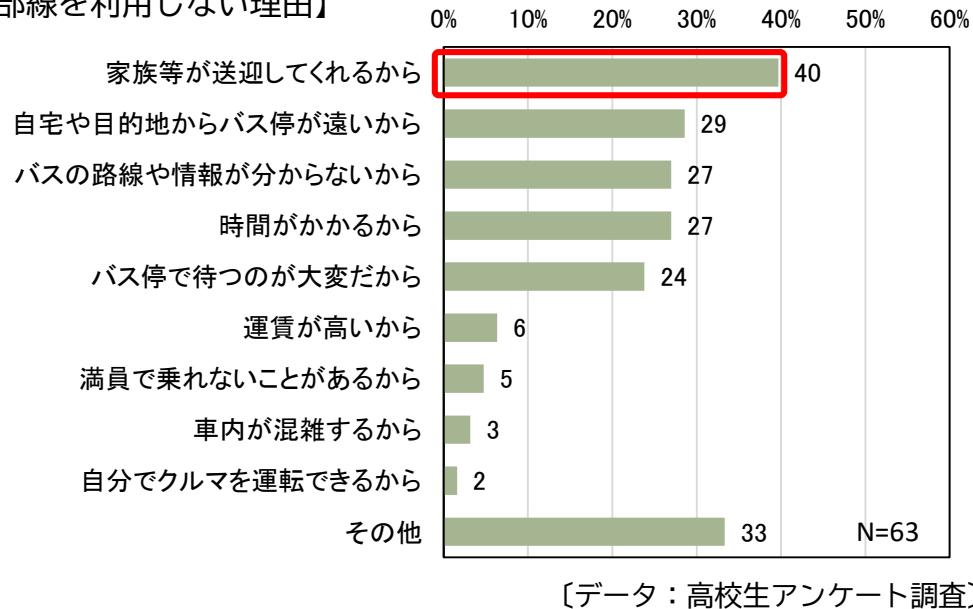
南部線沿線高校生の通学

- ・南部地域は、自転車や送迎により駅までアクセスする生徒が多くを利用する割合が高い。
- ・自転車利用者は、雨天時は送迎に転換する生徒が多く、南部線に転換する生徒は少ない。
- ・南部線を通学に利用しない理由としては、家族が送迎してくれるためが多い。

【通学時の交通手段】



【南部線を利用しない理由】



運行や情報提供に関する意見

- ・ガヤガヤ会議、市民アンケート調査において、以下のような意見が多くみられた。

ダイヤ

- ・買い物時に帰りの時間が合わず往復で利用しづらい
- ・病院の時間に合わない

運行ルート

- ・路線が大回りで所要時間が長い
- ・南部線で岐阜羽島駅へ行けない

バス停

- ・バス停が遠い・分かりにくい
- ・自転車を置くところがない
- ・屋根をつくるなど環境をよくしてほしい

案内

- ・どんな路線が走っているかわからない
- ・時刻表が見づらい

〔データ：ガヤガヤ会議、市民アンケート調査〕

ヒアリング

- ・コミュニティバス運転手ヒアリング

▼各種調査の結果から明らかになった現状・問題点

- ・コミュニティバス運転手ヒアリングにおいて、以下のような意見・提案がみられた。

渋滞による遅延箇所のルート見直し
 南部地域の競合路線見直し（南部線、中・はしまわる線、温泉・はしまわる線）
 モバイル定期券、キャッシュレス決済導入
 運行ルートの短縮（1周40分程度）
 中心市街地を巡回する路線の導入

〔データ：コミュニティバス運転手ヒアリング〕